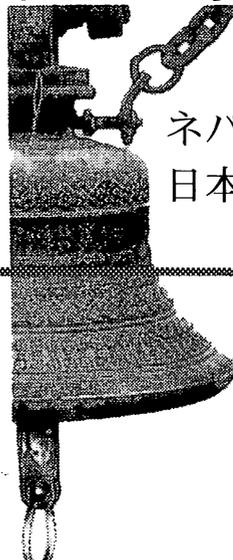




平成17年2月19日(土)、(サロン・あべの)2月の出会いは、山歩きが好き、トレッキングが好きな山野壮一さんがお客さま。2度目の登場です。普段から、スポーツセンターなどでトレーニングを欠かさない山野さんは、ご夫婦でヒマラヤから、日本の山々を歩いておられます。そして時には、お孫さんもごいっ

私のフォトハイク

ネパールの風景と日本の高山植物



から110数枚をスライドにして、「ネパールの風景」「高山植物」「ヒマラヤの女性」の3部構成で見せていただきました。題して「私のフォトハイクーネパールの風景と日本の高山植物」。

□ネパール

ネパールは、アジア大陸にあるインドの北東に位置する陸地で囲まれた王国で、世界最高峰

しよされるエベレスト(現地名:サガルことも。最マータ)をはじめ多くの山がそ近では、昨年12月に六甲を縦走されました。

今回は山歩き、トレッキングの途中に、撮られたたくさん写真の中のまた、チュリア丘陵からインド国境にいたる南北50kmの間の地域はタライ平原と呼ばれ、ほとんど傾斜のない平坦な土地になつています。

ネパールは大きく3つの地域に分けることができます。

①ヒマラヤ地域

この地域の標高は4877mから8850m。8000mを含む巨峰があります。

②中間山岳地帯

全国土面積の約64%がこの山岳地帯です。4877mまで従えるマハバラータ山脈がこの地域を形成しており、低いチョリア丘陵があります。マハバラータ山脈とチョリア丘陵の間に多少の盆地があり、首都カトマンズや観光客の多いきれいな町ポカラもこの地域になります。

③タライ地方

チョリア丘陵からインドまで続くこの地方はインド国境のままで約50kmほどしかありません。全国土面積の約17%が、このタライ平原でゾウやトラやサイの棲むジャングルまであります。

ネパールの気候としては、地域によって差はありますが、一般的には日本とほぼ同じ。カトマンズは標高1400mですが、日本であれば奄美大島とほぼ同緯度に位置しますので、冬でも

それほど寒くはなりません。ネパールの気候の大きな特徴は、

雨期と乾期があること。都市に よって多少の差はありますが、 通常は6〜8月の3カ月間が雨 期で、残りの9〜5月が乾期。空 気が澄んでいてヒマラヤもよく 見え、トレッキングにも適して いるベストシーズンは10月。

★写真

山の頂に広がる青い空、
そこにポツと現れた綿雲、
一瞬のチャンス。

★写真

かと思えば、抜けるよう
な空、白い雪、その間に見
せる真っ黒な岩肌、絶妙

のコントラスト。

★写真

渓谷を歩く奥さんの後を
ロングでとらえた写真は、
映画の1シーンを思わせ
る1枚。

□食文化

民族によって食生活は異なり
ますが、基本的に1日2食です。

普段の食事は、ダル・バートとよ
ばれる定食です。ダル(豆のスー
プ)とバート(ごはん)に独特の
スパイスで煮込んだ野菜のおか
ず(タルカリ)とピリツと辛い漬
け物(アツアール)が添えられま
す。

ネパールの料理の特徴は、①
カレー味、②ニンニク、タマネ
ギ、トマトを多用する、というこ
とです。

タルカリは、慣れない人には、
すべて同じカレーの煮物に見え
ますが、食べてみると細やかな
違いがあります。また、いわゆる
激辛の料理は少なく、ニンニク
のkokやトマトのさわやかな酸
味を感じる料理が多いのも特徴

です。また、ネパールの多くの人
は、ヒンズー教を信仰しており、
牛は神聖な動物と考えられ、決
して食べません。

★写真

テンプルに並んだいろい
ろな料理の写真。
ミトチャ(おいしいです)

□学校

最近、教育の普及によって
就学率は増えてきたとはいえ、
まだまだ識字率は低いのが現状
です。

多くのネパール人は農業に
頼って生活をしているので子供
を学校に行かすことができない
人や労働力として使いたいがた
め行かせたがらない人も多くい
ます。

★写真

先生を中心に、子どもたち



バザールで買った鐘の、えも言えぬ音色を披露

のにこやかな写真。この女の先生はすぐく教育に熱心。近く博士号を取得されるとか。

□女性

インド、ネパール、バングラデシュ、パキスタン、スリランカなどの女性の民族衣装であるサリーは、5〜6メートルもある長い布を巻きつけるだけのもの

です。世界の民族衣装の中でも優雅な美しさを見せてくれるサリーは、それぞれの国やその地方や宗教によってさまざまな着方があります。

★写真

原色の民族衣装を付けた、伏し目がちにはにかむ女性をカメラは魅力的にとらえている。

★写真

一転してカメラは、収穫した豆を背負って家路につく女性の、たくましさや秘めた表情をとらえる。

★写真

黙々と働く女性と対照的に、道ばたで何するでもなくただ漫然とたむろする男性をとらえた写真。

□高山植物

高山植物とは高木限界よりも標高の高い高山帯(中部地方で標高2400m付近)に自生する植物の総称です。

氷河期(100万〜1万年前)、気温降下に伴い北半球に分布していた寒冷地の植物は徐々に南下し、各地に広がり繁殖していききました。しかし、その後気候が温暖になると、南方からの優勢な植物に追いやられます。この時一部が北方に戻るかわりに寒冷な高山へと生育場所を移し、今日の高山植物の祖先となったとされています。

高山帯は寒冷で風雪も激しく、紫外線も強い場所です。そのうえ、土壌の水分や栄養分は乏しく、また気象条件の変化もめまぐるしいため、植物の生育には過酷な環境といえます。

しかし、高山植物はそれに適応するための形態や機能、生態

をもつて順応します。一般に、地上部は小さく地下部はよく発達しています。特に葉は小さく、多肉になったり、毛でおおったり、針状、うろこ状に変化したりするなどさまざまな形態が観察されます。また、花は比較的大きく色鮮やかなものが多く、生育期間も短いため、ほとんどの種の開花がほぼ同時期になり、いわゆる「お花畑」をつくります。

黒紫のクロユリが画面いっぱいに咲き誇っている。つばいに咲き誇っている。「高嶺の花」のイメージがぴったり。

★写真

地面に、はいつくばるように、健気に咲くチンゲルマをローアングルで接写、撮る人の優しさを見る作品。

★写真

高山植物はそれに適

ご本人は歩きが主で、写真は従。と言われていますが、どの作品も味わい深いものばかりでした。これらの作品をどう説明しても伝わりません。ましてや、私の拙い文章力では、山野さんの作品のすばらしさはとても……。筆舌に尽くしがたいという言葉があります、今日ほど実感したことはありません。

ともあれ、山歩きの醍醐味、大自然の素晴らしさや偉大さ、出会いの大切さに出会えた（サロン・あべの）2月の出会いでした。ナマステ フェリ ベトウンラ（さようなら、また、会いましょう）

今日の準備・後片づけのために、山野さんの娘さんやお孫さんにまで、いろいろお手をわずらわせまして、本当にありがとうございました。

（参加者17名 山村貴司）

2004年12月5日曜日に六甲全山縦走（*）のチャレンジに、おじいちゃん・おばあちゃんとおばあちゃんの入っている武庫労山の会の人達と行きました。

六甲全山縦走完走したよ！

全縦の前日、私は、おばあちゃんとおばあちゃんの友達といっしょに旅館に泊まりました。その夜は、雨・風・雷でなかなかむれませんでした。でも、朝は、けっこうすんなり起きてよかったです。そして、本当に当日は、雨がふってなくて、よかったです。最初、足が慣れるまでは、しんどかったけど、足が慣れてからは、らくらくという感じでした。

菊水山で、もらったみかんは、家で食べるより特別においしく感じました。

六甲最高峰まで、もうすぐ着くという所で足が少し痛くなってきました。でも、熱いスープを飲んでから、とても元気が湧いてきました。しばらく歩くと、空が暗くなり始めました。暗い道は、こわく、長く感じました。最後の道路に出て、武庫労山のリーダーの黒木さんと走った時、風がほほにあたるのが感じられました。とても自然なことなのに不思議に感じま

した。ハツと我に返ると、ゴールが目の前。やったー、着いたぞー！ その時の感動は、忘れられません。思ってみると、予想していたより良かったです。たぶん、すぐくたいへんなこと思っていたからでしょう。

私がゴールできたのは、いっしょに歩いてくれた人、そして、途中までわざわざ来て、応援してくれた人、そうして、裏で応援してくれた人達のおかげだと思っています。だから私がやりとげた事は、応えんしてくれた人達みんなとやりとげた事だと思っています。

私は今度行く時はタイムを気にしながら行きたいと思っています。今回のタイムは13時間でした。（稲葉明音・小6）

*六甲全山縦走とは

毎年12月の最初の日曜日に行われる兵庫の山岳連盟の行事です。須磨浦公園駅から六甲山系にある、いくつかの山々を登降して、宝塚駅までの43・2kmを1日で踏破するというたいへん苛酷なレースです。

この行事は今年2005年で40回目を迎え、記念行事が予定されています。

赤松 昭

「谷間」に 「ごだわり」続けて

10

—どっちつかずの辛さ「軽度障害」(続き)—

さほど大きくはない会場にたくさんの方が集まりました。「軽度障害」をテーマにしたこのシンポジウムに寄せる参加者の期待を私は感じていました。

最初に田垣さんがご自身の体験を話しました。前回でも紹介した通り、田垣さんは分婉麻痺のために右手に障害がありますが、高校までは障害者は全く別の世界の人だと思っていたこと。大学は社会福祉科に進んだものの、しばらくは福祉制度・援助方法には関心がなかったこと。しかし、そのうち障害者と

周囲の人間の関係に興味を持つようになり、大学院に入ってから中途の重度肢体障害者の内面の研究を始めたこと、などを話されました。ただ、大学院に入った時点でも軽度障害のことをそれほど考えていたわけではなく、ある場で軽度障害者である自分は「境界人」だという話をしたところ、大きな反響があったために、以降本格的に軽度障害のことを考えるようになったそうで、1999年に軽度障害について体験・意見を交換するメーリングリストを開設。参加メンバーと直接出会うオフ会を重ねながら、シンポジウムを開くに至るまでの経緯をお話してくださいました。

田垣さんに続いて「顔にアザや傷などをもつ人たち」の自助グループに属するMさん、弱視を経て全盲状態となられたKさん、二人の話題提供と活発な質疑応答がなされてシンポジウムは終了しました。翌年には2回目のシンポジウムも開かれ、またメーリングリストに加えて軽度障害のホームページも開設されるなど、軽度障害をめぐる活動は広がりをみせています。

「軽度障害」とはそもそも何なのか？この文章を読まれてこう思われた方もいるかも

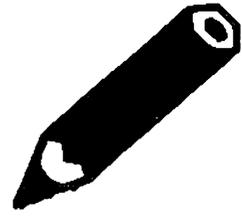
しれません。これについては、シンポジウムで田垣さんが次のように語っています。「軽度障害といっても客観的な基準があるわけではなく、障害が重いか軽いかは、自分で決めればいいのです。大事なものは、軽いから○で困っている、重いから□で困っている、というように、自分の主張にあう基準を作ればいいのではないのでしょうか。つまり、外部が決めた障害の基準に従うのではなく、自分が決めた障害の基準に従ってサポートを求めていけばいい、ということなのです。「軽度障害」というキーワードに多くの人が共感したのも、この言葉が必然的に「当事者主体」という考え方を導き出すに他ならないからだと思います。

ありがとうございました。

カンパ、お菓子などのご寄贈、またサロングッズのお買い上げ、ありがとうございました。

稲垣恵雄、奥田久子、小島敬大、竹野良枝、平岡太、三好桂子、森田秀文、山野荘一、山村貴司、和田保子、その他の方々。(敬称略)

14



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者の自立生活 — 障害者と介護者 —

アメリカにおける自立生活運動は1960年代に始まり、経済的職業的自活や身辺自立とは異なる自立観を構築しました。介助者のケアを受けて、自らの人生や生活のあり方を自らの責任において決定し、また自らが望む生活目標や生活様式を選択して生きる行為を自立とする考え方で、障害者自らが主体者となって生きる行為を自立生活とする理念です。そして、1978年には介護受給権の保障、地域居住サービスの整備などの公的保障を獲得しました。そして、障害者は、介護受

給権を獲得することによって、障害者自らが介護者を雇って介護してもらう介護の消費者であるという考え方を生み出しました。

一方、日本においても同じ頃、脳性マヒ者の団体である青い芝の会を中心とする障害当事者による自立生活運動が始まりました。障害者の生命の否定と不幸な存在とされるような障害者の社会的イメージを批判して、行われた障害当事者からの問題提起は、障害者の解放と自立を追求していった日本独自の障害者自立生活運動であったといえます。

大阪では1973年に大阪青い芝の会が結成され、障害者の自立生活運動が展開されていきました。当時、アメリカとは異なって、公的な介護保障がない日本では、障害者の介護は無償ボランティアによるものでした。大阪で初めての自立障害者である金満里(障害者だけの劇団「態変」の主催者)さんは、当時の介護の問題点として、介護者不足や健全者との間の微妙な感覚のズレをあげていました。例えば、フロア、トイレ、食事、洗面などの介護で、介護者にしてやる意識や障害者が子供扱いされるなどです。当時、大阪青い芝の会では、障害当事者である青い芝の会と介

護者グループ・ゴリラの二つのグループに分けられ、ゴリラは頭を使わないで手足を使う介護者グループであり、青い芝が主人でゴリラは従者の関係でした。おそらく、ボランティアだけによる介護体制の中で、障害当事者の主体性を守るためにもその主従関係は必要だったのだと思います。

しかし、両者の立場性の違いや立場を対等にすべきではないかという問題も次第に出てきました。この両者の亀裂は、1978年には、全国青い芝の会の分裂を招く問題に発展し、全国青い芝の会は、障害者の主体性を守



ありがとう。20年

<サロン・あべの>は20年になります。

るために介護者のグループを解散させる方針を取りました。しかし、大阪では、介護の必要な重度障害者がほとんどで、介護者グループ・ゴリラは障害者の自立にとって大切な存在でした。また、障害者の中には、社会経験や自分一人で生活した経験もなかった人が多かったので、介護調整はゴリラが行っていました。そんな中で、個人的なことを犠牲にして、相当無理をして介護に入るゴリラも多く、やめていくゴリラも多い状況でした。大阪青い芝の会は、介護者の手足論を否定し、1985年には全国青い芝の会を脱会して、障害者と介護者グループ・ゴリラが共に協同して地域に根ざした独自の障害者自立生活運動を進めていくことになりました。

当時、公的な介護保障がない中で、障害者と介護者の関係は今とはまた違う様相を呈していたと思われまます。しかし、30年にわたりますさまな困難を経て、障害者と介護を担う健全者が共に目指した障害者の自立生活運動が地域の理解と協力を得ながら前進していくことが望まれます。

(定藤邦子)

弥生(3月)の声を聞くと、窓からさし込んでくる日差しもすっかり明るくなり、だんだん暖かさが増してくる。すると冬眠していた虫や小鳥たちもそろそろ活動を始める。そして芽を吹き出した木々に葉が繁り、色とりどりの花が咲くようになる。

ところで毎年、私は家に居ながらにしてさまざま花を見て楽しむことができるのである。そんな中でも特に桃の花を見るのが楽しみなのだ。

なぜかと言えば、我が家の向かいの井本さんの庭に四季折々の花を咲かせておられるので、私はいつも家の窓から見る事ができるからである。花のお好きな井本さんは時間があれば枯れ葉を落としたり、花に水をかけたりして丹精込めて育ておられるので、どんな時でも花を欠かさ

れたことがない。

数年前の春先に妻が井本さんに「うちの主人はお花、特に桃の花が好きなので、いつも窓から眺めて楽しませてもらっています」と話した。すると井

本さんはそれから桃の木をできるだけ高く伸びるようにしたり、桃の花に他の木の葉が重ならないようにして窓からでもよく見えるようにして下さるのである。私は井本さんに会えば挨拶をするぐらいだが、井本さんのこうした気くばりや思いやりが本当にうれしく

晴れのち晴れ 78

お向かいの桃の花

稲垣 恵雄



思う。

井本さんはこの春もまた淡い紅や白色の5弁に開いた桃の花を咲かせて、私だけでなく、道行く人たちの目を大いに楽しませて下さることだろう。

美智子のこんな話

岸田美智子

障害者自立支援法について

再三、このコーナーで書かせていただいた、ブランドデザイン案を元に厚労省から今国会に上程された「障害者自立支援法」は、まもなく審議されようとしています。私達はこのような厚労省の動きに抗議するために、2月の15・16日の2日かけて2000人規模の全国大行動を、またまた行いました。具体的には議員回りや、国会に向けてのデモ行進、そして街頭でのピラマキなどを行ってきました。私達の「自立生活センター・MY・DO（まいどく）のメンバーも、その2日間の行動に参加してきました。一晩、厚労省前で、泊り込みの体制を実行したのですが、雨が降ってきた

り、地震があったりと災難続きだったため、明け方で断念しました。とにかく寒かったです。このような車いすのメンバーが何百人も集まって座り込みするのは少なくとも戦後初めてのことでないかと思います。それにもかかわらず、この法案は予定通り上程されてしまいそうです。でも、厚労省の担当役員のメンバーは、少しずつですが今頃になって、私達障害者の声を聞かせて欲しいと電話があったりしてきているので、内容について詳しい審議は、これからなのでほとんど障害者の実態を伝えていっているところです。そして、障害者の新しい自立生活の考え方を取り入れて、自己選択・自己決定を保障した支援費制度ですが、わずか2年足らずで予算がないということ、つぶされようとしています。予算がないという問題ですが、皆さんもご存じのように汚職問題やいろいろな所で何百億というお金が動いて

サロンの

絵はがき

5枚1組 ¥180

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力お願いします。

いるようです。それはいつたどこから出てきたお金なのか、非常に疑問に思えますし、国家予算の配分など見ていると、どうも人殺し（戦争）には予算が使われようとしていて気がします。予算に関していうのなら、私は現在でも支援費制度のモデルケースなので、1カ月に90万円くらいは支援費で介助者の人件費が必要です。1カ月に90万円といえば、大変高額だと思われませんが、これは何も私という障害者に支払われるわけではなく、ヘルパーさんや事業所などで働く人の人件費や運営費として使われていくのです。つまり、景気対策にどんどんなっていくのではないのでしょうか。支援費がスタートしたこの1年足らずの期間でさえ、びっくりするほど地域の中にヘルパーの派遣事業所が増えてきています。もちろん、老人の方の介護保険制度の影響もあるでしょうが・・・。

お知らせ

<サロン・あべの>4月の出会い

内 容…サロンよいとこ、こんなとこ
～出会いました・ふれ愛ました・助けられました～

お客さま…窪田新一さん（「サロン淀川」代表）

日 時…4月16日（土）午後1時～4時

場 所…育徳コミュニティセンター2階
研修室（スロープ・車いすトイレ有）
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL 06-6621-1901
最寄り駅＝
地下鉄御堂筋線「西田辺」
赤バス「育徳会館」下車すぐ

会 費…なし
問い合わせ先…
TEL 06-6691-1028（富田慶子）

■ (知)さんのエッセイはお休みです。

このような経済的なお金の流れだけで見ても、決して無駄使いではないということが立証できると思います。おまけに健康者が年をとって、介護が必要になっても安心して生きていける社会が作られていくと思うし、障害者も入施設に閉じ込められた閉鎖的な生活でなく地域の中で、よりその人らしい生活を

実現していきけるのではないのでしょうか。

もう一度、皆さんもいろいろな角度から

この「障害者自立支援法」の問題点を明らかにしていきながら、その行方を見守って欲しいものです。

○連絡先

自立生活センター・MY・D.O.まいどく
〒558-10002
大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133
FAX 06-6609-3210

職業差別



224号の「職業の貴賤」を拝見しました。
職業の差別は私も感じています。

マクドナルドや洗車やさんなどほとんどがメキシコ系の人です。でも、レストランなどでテーブルについているウェイトレスまたはウェイターの方は白人もいればメキシカンもいてばらばら。

チップについて細かいことを言うと、レストランでは各テーブルに担当がついていて、注文を聞き料理を運んでくれます。われわれが食べた後、お皿を引いてテーブルを掃除して整えるのはまた別の人でメキシカンが多いようです。ところが、チップを払う先はテーブル担当の人で、テーブル掃除の人ではないようです。後で山分けしているのならいいのですが、そうでなかったら、本当に必要なところにそのチップが行っているのかなと思わず心配してしまいます。

日本と違い、顔を見れば大体出身が分かるので、アメリカはまさに差別社会なんだと実感します。

それでも真剣に一生懸命働いているそんな人たちはとにかく見ていて気持ちがいいですよ。働かないイメージのアメリカ人でしたが、みんな働き者。夢に向かってがんばっているんだろうと思います。

上田千鶴 (シカゴ)

懐メロに癒されて

こんにちは、ご無沙汰しております。お元氣にお過ごしでしょうか。私はいま、昨年2月より右を向くことも、左を向くことも、手も足も自力で動かすことの出来なくなった母に、ほとんどつきっきりの生活です。大変な1年間でした。介護は肉体的にもとても辛いのですが、それ以上につらいのは精神的なものでした。話をしたいといつも思いましたが、どうしても手紙に書くことが出来ません。悪戦苦闘

というか、悶々とした日を毎日過ごすというか・・・、そんな中、歌が私達を救ってくれたように思います。
ウイズ東淀川のSさんの奥さんが、私の好きな歌をMDにとつてくださるのですが、それを母に聞かせてあげたところ、1時間くらいおとなしく聞いてくれました。それからというものの「美空ひばり」の曲、昭和初期の懐かしい曲など、レトロな曲を本当にたくさんMDにとつていただき、母に聞かせました。すると、母は喜んで聞いているのです。私が買物に行く時も自分から「歌かけといて」と

いうまでになりました。母のために聞かせていた歌でしたが、つらい毎日でしたので、私にもとても慰めになりました。毎日がとても忙しく私も足がどんどん痛くなってきているのですが、でもなんとか少しでも長く家で介護出来ますようにと願っています。マンションはとも日当たりがよく暖かくて、冬は朝日がまぶしいほどで、母はそれをととても喜んでいきます。
いつになるか分かりませんがまた、(サロン・あべの)に参加したいと思っています。
(和田保子)



SALOON

随組ニュー人

■「サロン淀川」4月の出会い

日時：4月17日(日)午後1時30分～4時
内容：懐かしい歌をギター演奏で一緒に歌いましょう～季節が春に変わる頃に、何故か歌いたくなる曲を沢山持ってきました～
ゲスト：日下平和氏(ピースサークル主宰・長居公園の演歌の星)
会費：なし
場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」4月の出会い

日時：4月9日(土)午後1時30分～4時
内容：紙芝居を楽しもう！
ゲスト：未定
場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)
地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
☎06-6539-8075
会費：なし
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・ひらの」4月の出会い

日時：未定
内容：未定
会費：未定
場所：未定
問い合わせ先：にこにこセンター
☎06-6795-2525

■「サロン・にしよど」4月の出会い

日時：4月23日(土)1時30分～3時30分
内容：今回で3回連続の出演です。歌あり、演奏あり、ものまねあり、ゲームありの盛りだくさんでお待ちしております。
ゲスト：「にしよどがわワークきさらぎ」のみなさん

場所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
参加費：なし
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎06-6494-0635
中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」4月の出会い

日時：4月9日(土)午後1時30分～4時
内容：支援費制度と介護保険制度の統合について
パネラー：請川恵造氏・金光雄氏
(自立センターエポック)
会費：なし
場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■「てくてく・すみよし」4月の出会い

日時：4月17日(日)
集合=午前10時、近鉄線難波駅
内容：奈良公園を散策-春を探して-
場所：奈良公園
準備：お弁当・交通費など、実費は各自負担
カンパ：500円
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」4月の出会い

日時：4月3日(日)午後1時30分～4時
内容：園芸療法の実践のお話と
植物を使ったクラフト作り
講師：実原いさ子氏
(癒しの園芸の会 おおいずみ)
会費：300円
場所：鶴見会館2階
大阪市鶴見区横堤5-5-51
問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー) 田村 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」4月の出会い

日時：4月9日(土)午後より
内容：お花見会
会費：なし
場所：たんたん小路(昆陽池の横)
申し込みと問い合わせ先：
黒野 ☎072-781-3549

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第224号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 「サロン・あべの」紙は、第1号より第224号までそろっています。
- (b) 「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

- んわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ばけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田 ☎06・6691・1028 まで。

寄りみち



2月1日、ネパール・ギャネンドラ国王はデウワ首相解任を発表しました。国王は、連立与党や野党のネパーリ कांग्रेस党など政党が国内の治安回復やマオイスト問題を解決できなかったことを強く批判し、今後早い時期に複数政党による民主主義を再開させ、平和を実現し、総選挙を実施する。としていますが、具体的な先行きの見通しは立っていません。山野さんは今日の出会いの翌20日にネパールへ発つ予定でしたが、その筋からのお達しで足止めに。(石)

<サロン・あべの> VOL. 225 発行：平成17(2005)年3月19日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>

一九九九年九月三日第...種郵便物認可(毎日発行)